

発音を意識した 英単語帳による作問学習支援

学籍番号：1421009 氏名：星野勇太

指導教員：鷹野孝典

研究背景

- 英語学習の中で英単語を覚える際、単語帳や単語アプリ(eラーニング)を利用する人が多い。

- 中高生の英語学習のつまづきの原因の上位
 - ・ 単語を覚えるのが苦手
 - ・ 学習習慣がついていない



([1] : 中高の英語指導に関する実態調査2015)

→ 単語学習から始めようとするが苦手とする人が多い。

研究動機

- 英単語帳を自らが作成する際に、以下のメリットがある。

- ・ 学びたいものを作れる。
- ・ 中学校および高校の授業で多い、テキストを使った「受動的な学習」と差別化できる。

（[1]：中高の英語指導に関する実態調査2015）

- ・ 作問による学習効果が期待できる。



作問する際に、単語と意味以外の付加価値を追加することで、単純な記憶学習から、**英単語に対してより深い理解が得られる学習**に変わると考えられる。

関連研究(1)

[1]：日本人が好む英語学習方略

(城西国際大学外学院：多田，城西国際大学大学院紀要 第11号，2007)

- ・ 過去と現在の英語学習法を比較し，日本人が好み，効果的だと思っている学習法を考察している.
- ・ 具体的な記憶学習方略をいくつか挙げている.

[2]：作問演習システム「CollabTest」利用による学習効果の検証

(創価大学工学部：高木・坂部・勅使河原，全国大学IT活用教育方法研究発表会，2009)

- ・ 学習者が問題を作成し，eラーニングで収集した後，その問題でテストする.
- ・ 従来のeラーニングとは異なった特徴がある.

関連研究(2)

[3]：中高の英語指導に関する実態調査2015

(ベネッセ教育総合研究所, 2015)

- ・ 中学校高校を対象に, 英語に対する意識調査

[4]：「生活者のeラーニング利用状況実態調査」実施結果のご報告

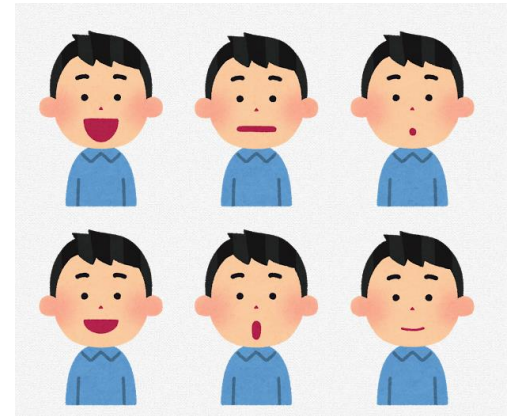
(日本イーラーニングコンソシアム, 2016)

- ・ eラーニング利用状況, 市場動向の調査

研究課題

●付加価値に成り得る情報例を以下に挙げる.

- ・ 発音記号
- ・ 舌の動き
- ・ 写真
- ・ 発音音声
- ・ 関連語
- ・ 絵
- ・ アクセント
- ・ 類義語



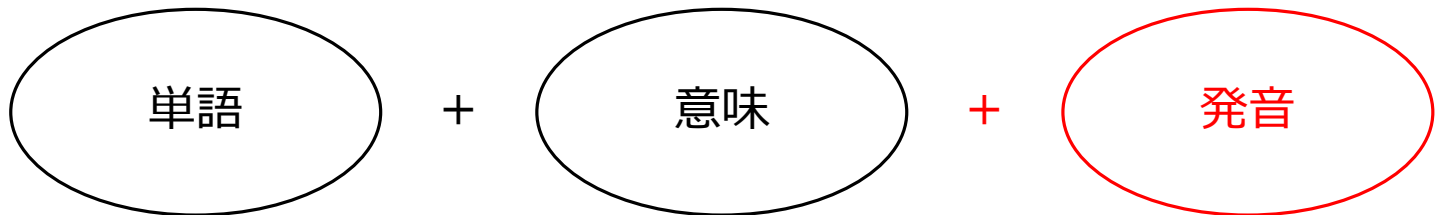
➡ **発音**を付加価値となる作問学習が可能なe-ラーニングシステムの実現.

提案システム

- 英単語帳を作成する際，入力された英単語の発音に関する情報を提示することにより，付加価値のある作問学習が可能になる．
- 作成した英単語帳を印刷し，印字されたQRコードから発音練習のできるe-ラーニングシステムでの学習が可能になる．
- 作成した英単語帳を他の学習者と共有することもできる．

本研究のアプローチ

- 学習者が英単語帳を作成する際に、発音記号や音節といった発音に関する情報を付加情報とし、英単語に対してより深い理解が得られる学習を可能にする。



実装

- 英単語帳作成のプロトタイプ.

【単語】	<input type="text" value="apple"/>	検索	
【意味】	リンゴ	【音節】	ap・ple
		【発音記号】	/ˈæpl(米国英語)/

印刷

実装

●提案するシステム.

